

結核について



結核とは

- ・結核は、結核菌を病原体とする感染症です。
- ・主な感染経路は、結核患者の咳やくしゃみに含まれる飛沫核を吸い込むことによる空気感染です。
- ・感染した人がすべて発病するわけではなく、感染者のうち発病する人は約1割といわれ、感染後2年以内に発病することが多いと言われています。
また、他の病気や加齢等により身体の抵抗力が低下したときにも発病するため、感染後数十年経って発病することもあります。

感染と発病のちがいについて

「感染」：吸い込んだ結核菌が肺に定着した状態をいいます。結核菌が体内にあっても、特に悪い影響を与えていない状態で、人への感染性もありません。

「発病」：結核菌が体内で増えて病気を引き起こした状態をいいます。発病の初期は、咳や痰の中に結核菌が出ませんが、結核の進行に伴い、咳や痰の中に結核菌が排菌され、排菌量が増えると他の人にも感染させるようになります。

症状は

- ・咳、痰、微熱などの症状が現れ、時に血痰、食欲低下、体重減少などが現れるようになります。
- ・症状がはっきりと現れにくい高齢者では、食欲低下や体重減少がサインとなる場合もあります。
- ・治療せずに症状がすすむと、肺の病変が拡大して呼吸困難に陥ることがあります。
また、骨や腸管、腎臓など肺以外の臓器にも病巣を作ることがあります。

主な治療法は

- ・抗結核薬（通常3～4種類）を基本的に6ヶ月間内服します。
- ・排菌がある場合も、一般的に内服を始めて約2週間で他の人への感染性はほぼなくなります。
- ・個人の病状や経過によって長くなることがあります。

接触者健診について

接触者健診は、原則として結核患者との最終接触から2～3ヶ月経過後に、結核菌の感染有無を調べる血液検査（IGRA検査）や結核の発病を調べる胸部エックス線検査などを行います。【結核の接触者健康診断の手引きとその解説（令和4年改訂版）に準ずる】



予防のポイント

- 生後1歳に至るまでにBCGワクチンを接種する。
 - ・結核の重症化を防ぐワクチンで、結核菌が後から侵入したときに備えて免疫をつけることが出来ます。
- 毎年1回は定期の健康診断（胸部レントゲン撮影）を受診しましょう。
- 咳エチケットを心がける。
 - ・咳をする場合には口元をティッシュや布で押さえる、またはマスクを着用しましょう。
- 風邪様症状が続く場合には、医療機関（内科や呼吸器科など）を受診しましょう。